

現代日本の高校生の成熟
— 「憧憬人物の存在」と「逆境乗り越え経験」の意味するところ—
Japanese Senior-high Schoolers' Sense of Their Becoming Matured
— A Progress Report —

平成27年3月

人材育成学会
『若者の成熟の現状と展望』研究プロジェクト

プロジェクトメンバー

(所属は平成27年4月1日時点)

- 座長 大泊 剛 株式会社人事工学研究所 所長
石川孝子 国立大学法人 東京工業大学大学院 イノベーションマネジメント研究科助教
*伊藤真哉 学校法人 湘南学園 中学校・高等学校 教諭
*今村佳明 三菱電機特機システム株式会社総務部 部長
遠藤雅子 岩手大学教育推進機構 特任准教授 (COC 事業/キャリア教育担当)
国枝よしみ 大阪成蹊短期大学 観光学科 准教授
郷原正好 九州大学附属図書館 企画課長
桜井 創
桜井 翼 帝京大学文学部心理学科
*田中誠樹 京都府立鳥羽高等学校 教諭
*内藤 淳 株式会社リクルートキャリア 新卒事業本部インフロー統括部
インフローソリューション開発部 測定技術研究所
*平野 孝 千葉県立市川昂高等学校 教諭
村山 陽 東京都健康長寿医療センター研究所 非常勤
*山田 香 株式会社コーチ・エイ
劉 東岳 株式会社学研ホールディングス 学研教育総合研究所
(注) *印は報告書作成に関わったメンバー

1. 問題

近年、高校の進路指導、大学のキャリア教育、企業の若手社員教育、メンタルヘルス不全者の心理相談場面など若者に関わる現場で、彼らの自律性の弱さや精神的な脆弱性の問題が指摘されている（金子，2012；町沢，1992；斎藤，1998など）。

これらの問題は、「若年層の未成熟」という言葉を用いて論じられることも多い。しかしながら、未成熟という問題が議論される場合、その背後には、以前はそうでなかったものが、何らかの社会の変化を原因として、近年マイナスの方向へと変化しているという現状認識が存在していると考えられる。ただ、これらの議論は一般に、若者の自律性あるいは精神面での強靱性不足という現象を捉えてはいるものの、この問題にどのように対応していけばよいかという改善の方向性に関する有効な施策の提示までには至っていないことが多い。それはおそらく、この問題が複雑で様々な社会的背景をその要因としており、何に対して手を打つのが有効なのかを特定することが困難であるという事情による。また、それよりもさらに前段の課題として、そもそも「若年層の未成熟」と呼ばれるもの、あるいはその対極に暗黙の前提として置かれている「成熟」と呼ぶべき状態が具体的に何を指し示すかが曖昧で、明確にされないまま議論がなされている点に問題があるのではないと思われる。

若年層の未成熟という問題に向き合うためには、この現象が生じている原因や社会的背景を把握することが必要になる。原因の特定に踏み込む前段階として、まずは若年層における「成熟」と呼ばれるものが何を指すのか、また、それがどのような契機によって阻害ないしは促進されるのかに焦点をあてる必要があるであろう。このような認識に基づき、我々は、成熟を構成する要素および成熟の機序の把握を研究目的に定めて活動を進めてきた。

青少年に関わる実務家や教員、精神医療の研究者、企業における人事教育担当者など、この問題に関連する諸領域の識者を招いての討論を重ねるとともに、関連領域における先行研究・各種文献の渉猟を行った上で、「成熟」を、あくまで暫定

的な定義として、「精神的に自立して、他者と折り合いをつけながら、安定的・継続的に社会生活を営める状態」と定めた。この定義は、以下に述べる3つ観点を重視して設定された。

まず第1に、ここで問題となる「若年層の成熟」は、それが十分に達成されていないことにより社会への適応に不具合を生じさせるものであり、逆にいえば、若年層の社会への適応を促すものであることに主眼が置かれている。この意味で「成熟」は、保守的な傾きながら、社会が適切に機能していくために個人に求められるものという位置づけの概念であるといえる。「成熟」に関連する概念に「アイデンティティ」(Erikson, 1959)があり、精神的な自立とアイデンティティの間には深い繋がりがあると考えられているが、その人をその人ならしめている自己同一性としてのアイデンティティが個人の実存的側面に焦点をあてるものであるのに対して、「成熟」は個人がいかにして他者や社会とうまく折り合いをつけていくかという社会適応の視点を強調する点に違いがあるといえよう。

第2に、「成熟」は社会に適応していくために必要なある種の「構え」を表すものであり、人が社会で生きていくために必要なレディネスの獲得を意味する概念でもある。キャリア心理学の分野でスーパー (Super, 1957) は「キャリア成熟」という概念を提唱しているが、これは、就職や転職など自分にとって重要な人生の選択を個人が行っていくために必要な能力や態度を獲得している状態を表すものである。スーパーの場合には職業選択という場面に焦点をあてているが、広い意味での社会への適応を支えるレディネスという点では我々が定義した「成熟」と近い立場であるといえる。また、人格心理学者のオルポート (Allport, 1961) は、「成熟した人格」の特徴として、①自己意識の拡大 (extension of the sense of self)、②暖かい対人関係 (warm relating of self to others)、③情緒的安定 (emotional security)、④現実的な知覚、技能および課題 (realistic perception, skills and assignments)、⑤自己客観視 (self-objectification)、⑥統一した人生観 (unifying philosophy of life) の6つをあげている。多様な要

素を含んでいるが、共感的な関わりによって人と暖かみのある関係を築く(②)、現実を正確に把握して働きかける技能や姿勢を有している(④)など、「人格の成熟」には実践的なスキルや態度の獲得を通じて社会への適応を促進するという面が含まれると考えてよいだろう。このように「成熟」という言葉は、社会への適応や人生を適切に生きていくためのレディネスの獲得という意味を包有しており、我々もその文脈で「成熟」という語を用いている。

第3に、「成熟」は単に社会に適応するための技能やスキルを有する状態を意味するだけではなく、それ以上に社会の一員として充実した人生を送ることに寄与する精神的な発達や価値観・態度の獲得をも含む概念である。この点で、近年教育現場や企業において利用されることの多い「社会人基礎力」(経済産業省,2006)とは少しく異なる。社会人基礎力は、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」とされ、3つの能力と12の能力要素から成るが、その構成要素はいずれも仕事に就くため、あるいは社会的・職業的に自立するために必要な汎用的能力である(表1参照)。これに対して「成熟」は、社会で自立的に生きていくためのスキル・能力の獲得ということだけにとどまらず、自己の将来に対する展望や社会に対する関心の広がり、偏りのない等身大の自己像の確立やありのままの他者の受容など、精神的な発達や価値観・態度の獲得と

いう面をも含む点で違いがある。

我々は、「成熟」の構成要素およびその機序の把握にあたり、研究対象を「高校生」に定めた。若手企業人の組織における不適応やメンタルヘルス不全が増加しつつある近年の状況を踏まえると、未成熟の問題を考える際に若手企業人までも視野に入れるべきとの考えもあるが、成熟に向けて人が大きく変化する可能性が高く伸びしろの大きい時期という意味で、企業人や大学生ではなく、人生のより早いフェイズである高校生段階に焦点をあてて研究を行うことがより妥当ではないかと判断した。精神分析的な人格発達理論では、高校生時代を多様な役割実験の時期としているが(Blos, 1962; 下山, 1982)、確かにこの時期は様々な進路選択の岐路に立たされることにより成熟に向けた課題が個人にはっきりと深刻に降りかかってくると思える。

高校生段階における成熟に焦点を定めた上で、我々は2012年に高校の教員を対象にしたWeb調査を実施した。これは、高校生の教育現場に立つ教員の目に映じた高校生の成熟と行動について問う質問紙調査であり、教員の認知に基づく成熟の様相が把握・析出された。教員の視点から捉えたときに、高校生段階の成熟には、勉学に真面目に取り組む、教員の指示に従う、友人と仲良くするなど基本的な発達課題の一部を達成した状態と、物事に対する主体的な態度、自分の将来に対して展望を持つ、人と深いレベルで関わるなど成熟に

表1 「社会人基礎力」の構成要素(経済産業省,2006)

能力	要素	能力の内容
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力
	実行力	目的を設定し確実に行動する力
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力
	計画力	課題に向けた解決プロセスを明らかにし、準備する力
	創造力	新しい価値を生み出す力
チームで働く力 (チームワーク)	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力
	柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する力
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力
	ストレスコントロール力	ストレス発生源に対応する力

とってより本質的で核となると考えられる状態が存在する可能性が示唆された。

ただし、上記の調査研究は高校の教員が対象であったため、結果はあくまで教員の視点から捉えた高校生段階の成熟を表すものであり、得られた知見が現実の高校生に適合するかどうかについてはなお不明である。そこで、我々は高校生そのものを対象として調査研究を企図した。調査の実施にあたり、「成熟」の定義を高校生段階に適合するように「勉強・部活動・学校行事等で、自分がやるべきことは自分が責任を持って行い、家族・教師・友だちとよい関係を保ちながら、将来を目指して、学校の規則や社会のルールを守って学校内外の生活を送れる状態」と記述し直した。

本研究では、高校生段階における成熟の様相について確認するとともに、高校生段階における成熟を規定する要因についても仮説検証を行うことを目的とする。成熟を規定する要因については様々なものが考えられるため網羅的な検証は難しい。本研究では、これまでの検討に基づき、成熟に影響を与えている可能性が高いと想定された2つの要因に限定して探索的な分析を試みた。具体的には、「憧れを抱く人物」と「困難を乗り越えた経験」である。

まず「憧れを抱く人物」についてであるが、高校生にとって憧れの対象となる人物を持つことの重要性に注目したのは、研究会討議における、あるメンバーからの指摘を契機としている。歴史が好きで若い頃から「坂本竜馬」に憧れを抱いていたこのメンバーは、これまでの人生の中で何か決断を迫られたときに、『もし竜馬だったらどう考えるだろうか』と自分自身に問いかけてきた経験を持っており、自分の中での理想である竜馬の存在が自分を成熟へ向かわせてくれたという実感を有していた。この指摘が発端となり議論を重ねた結果、自分の中に憧憬する人物を持つことはある種の内面的な規範の形成を意味するものであり、このことが自己の主体的な選択を支え、将来に対する展望を導くことに繋がっていくのではないかという仮説へと至ったのである。

企業人を対象にしたメンタリングの文脈で、

「ロールモデル」と呼ばれる「将来において目指したいと思う模範となる存在であり、そのスキルや具体的な行動を学んだり模倣をしたりする対象となる人物」の重要性が指摘されている。また、精神分析理論でいわれる「自我理想」（こう在りたい姿）や「超自我」（こう在らねばならない姿）の形成においても、友人や両親が果たす役割が指摘されている。このことから、高校生段階で成熟が深まっていく過程において、自分の中に何らかの意味で憧れを抱く人物、自分にとっての理想となる人物が存在していることは、成熟へと繋がる可能性がある。

一方、人が何らかの「逆境」を経験し、それを自分の中で受け止め、乗り越えるというプロセスが成熟への一つの契機であるという仮説を置いてこれまで研究を進めてきており、前回実施した高校教員を対象としたWeb調査においてもこの観点からの質問を含めている。本研究では、高校生という年齢も考慮して「逆境」という言葉は使わず、代わりに「非常につらいことを乗り越えた経験」という、若年層にも理解しやすい言い方で問い掛けをしてみた。

「艱難汝を玉にす」という諺があるように、人生において困難を乗り越えた経験をすることが「成熟」への契機ともなり得るだろうということは、我々の経験的な実感からも想像しやすい。困難を乗り越えた経験は自分に自信をもたらすことで自己効力感の向上に繋がるとも考えられる。また、企業人を対象にした研究でもいわゆる修羅場経験としての「一皮むける経験」がその人のリーダーシップ能力の向上に結びついていることが報告されており（金井、2002）、高校生段階における困難の克服経験が成熟を促す可能性があると考えられる。

2. 目的

1. 高校生段階での「成熟実感」が「高校生活における態度や行動」とどのように関連しているかを明らかにする。
2. 成熟を促進すると考えられた2つの要因について、その影響を吟味する。

- ① 憧れを抱く人物の有無
- ② 困難を乗り越えた経験の有無

3. 方法

3-1 サンプル

平成25年1月に、公立A高等学校（以下、A高校と呼ぶ）の協力の下に行われた。A高校に在籍する2年生全9学級357名（男子197名、女子160名）のうち、4学級150名の協力を得て、A高校が毎年実施している「在校生意見聴取」（記名式）に附加するかたちで我々の質問紙調査が実施された。協力した150名の構成は男子86名、女子64名であり、部活動への参加は111名が何らかの部に所属

し、39名はどこにも所属していなかった。

3-2 質問紙の構成

3-2-1 成熟実感

本研究で暫定的に定義した高校生段階での「成熟」すなわち、『勉強・部活動・学校行事等で、自分がやるべきことは自分が責任を持って行い、家族・教師・友だちとよい関係を保ちながら、将来を目指して、学校の規則や社会のルールを守って学校内外の生活を送れる状態』に照らして自分自身がどの程度成熟していると思うかを1項目5段階で評価させた。

具体的には、以下のものであった。

高校生段階での成熟を				
・勉強・部活動・学校行事等で、自分がやるべきことは自分が責任を持って行い、 ・家族・教師・友だちとよい関係を保ちながら、 ・将来を目指して、 ・学校の規則や社会のルールを守って学校内外の生活を送れる状態				
と、とらえたとき、あなた自身の「成熟」度合いは、どのようだ、と感じますか？				
下記の5段階のうち、当てはまる番号を一つ選んでください。				
成熟して まだ いない				十分に 成熟して いる
1	2	3	4	5

3-2-2 高校生活上での態度・行動

高校生段階における成熟の定義を踏まえた上で、成熟と関連があると想定された36項目を列挙

して、それらについて、自分自身にどの程度当てはまるかを6段階で評価させた。具体的には、以下のようであった。

以下のそれぞれの項目はあなた自身にどれくらい当てはまりますか。まったく当てはまらない～非常に当てはまるの中で、自分に最も当てはまると思うところに一つだけチェック (○) してください		まったく当てはまらない	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
1	校内でおとなとすれ違う時、知らない人でも挨拶できている	○	○	○	○	○	○
2	部活動には休むことなく参加している（部活動に入部している人は回答してください）	○	○	○	○	○	○
3	授業で分からなかったことは、その日のうちに理解できるようにしている	○	○	○	○	○	○
4	周囲からのアドバイスを素直に受けとめられる	○	○	○	○	○	○
5	自分の行動に責任を持っている	○	○	○	○	○	○
6	班やグループ等、集団をまとめることが得意だ	○	○	○	○	○	○
7	成長したいという意欲を持っている	○	○	○	○	○	○
8	将来、なりたい職業や夢を持っている	○	○	○	○	○	○
9	各種検定や校外模試などに主体的にチャレンジしている	○	○	○	○	○	○
10	社会の動向に興味がある	○	○	○	○	○	○
11	自分の考えを自分のことばで表現できる	○	○	○	○	○	○
12	授業をきちんと聴こうとする	○	○	○	○	○	○
13	先生の指導に素直に従うことができる	○	○	○	○	○	○
14	身だしなみに気がつかっている	○	○	○	○	○	○
15	クラス内の仕事や役割を、責任を持って受けることができる	○	○	○	○	○	○
16	インターネット等を通じた直接知らない相手との情報交換は避けている	○	○	○	○	○	○
17	縁（えん）の下の力持ちのような目立たない役割でもきちんとできる	○	○	○	○	○	○
18	高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている	○	○	○	○	○	○
19	先生やコーチに適切な言動で対応ができる	○	○	○	○	○	○
20	定期試験の勉強に一生懸命取り組んでいる	○	○	○	○	○	○
21	信頼しあえる友だちがいる	○	○	○	○	○	○
22	下級生に優しくできる	○	○	○	○	○	○
23	校則や社会的なルールを守って行動ができる	○	○	○	○	○	○
24	学校行事に前向きに取り組もうとする	○	○	○	○	○	○
25	予習・復習をして授業に臨んでいる	○	○	○	○	○	○
26	ボランティア活動に参加しようとしている	○	○	○	○	○	○
27	自分と違う考えを持つ人であっても、嫌いにならず、受け止めることができる	○	○	○	○	○	○
28	友だちや後輩などに勉強を教えてあげることがある	○	○	○	○	○	○
29	新聞や本など活字を読むことが好きだ	○	○	○	○	○	○

30	友だちや先生と意見が合わないときも、イライラしないで接することができる	○	○	○	○	○	○
31	インターネットやゲームが好きだ	○	○	○	○	○	○
32	将来は海外で活躍したい	○	○	○	○	○	○
33	早くおとなになりたいと思う	○	○	○	○	○	○
34	どのようなふるまいをすれば、どのような結果を招くかがわかっている	○	○	○	○	○	○
35	嫌（いや）だと思うことでも我慢（がまん）強く取り組むことができる	○	○	○	○	○	○
36	周囲のことを考えたり、全体の状況を見渡すことができる	○	○	○	○	○	○

(註)：項目の2「部活動には休むことなく参加している」は、150名中39名が「部活動に参加していなかった」ため、以降の分析からは削除した。

3-2-3 性格特性

成熟は個人の内面と密接に関わる概念であるため、性格特性と何らかの関係性を持つ可能性が予想される。性格特性については1980年代以降、国内外の先行研究において、人の基本的性格特性が

評定形式とは無関係に共通して5次元で記述できるとする、いわゆる Big Five 研究が盛んに行われてきた経緯があり、今日ではほぼ共通の見解として定着を見ている（表2参照）。

表2 パーソナリティの5大因子（高橋,2010,P.172を参考に）

外向性 (extraversion)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的で外界に積極的に働きかけていく性格 ・ 社会的、積極的、人づき合いがよい、話好き、表現豊か、快活などの特徴が顕著 ・ 内向的 (introversion) の反対概念
神経症的傾向 (neuroticism)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神経質で、落ち着いたのしない性格 ・ 心配性、くよくよする、落ち込みやすい、感情的、怒りっぽい、不安定などの特徴が顕著 ・ 情緒安定性 (emotional stability) が反対概念
調和性 (agreeableness)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利他的で慈愛に満ち、他者に思いやりのある人間的な人柄や性格 ・ 礼儀正しい、柔軟、信用できる、優しい、協調性のある、寛大などの特徴が顕著
誠実性 (conscientiousness)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤勉さや熱心さなどの意欲面を含みに入れた、まじめで実直、誠実な人柄や性格 ・ この性格をもつ人は、頼りになる、責任感の強い、完全主義、注意深い、勤勉、我慢強いなどの特徴が顕著
開放性 (openness to experience)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知的なことを好み、新しいものに積極的にかかわっていく性格 ・ 教養のある、芸術的、創造的、好奇心の強い、新しいもの好き、開放的などの特徴が顕著

本研究では、和田（1996）が開発した「Big Five 尺度」を用いる。この尺度は、570名の高校生のデータを用いて開発されたものであり、外向性、神経症的傾向、開放性、誠実性、調和性の5つの尺度から成る。高校生にとって意味内容が比

較的理解しやすいと考えられる平易な表現の項目を尺度ごとに4項目ずつを選択して使用し、自分にどの程度当てはまるかを6段階で評価させた。

具体的には、以下のものであった。

以下のそれぞれの項目はあなた自身にどれくらい当てはまりますか。まったく当てはまらない～非常に当てはまるの中で、自分に最も当てはまると思うところに一つだけチェック (Ⓔ) してください		まったく当てはまらない	ほとんど当てはまらない	あまり当てはまらない	まあ当てはまる	かなり当てはまる	非常に当てはまる
1	話し好きである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	不安になりやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	想像力に富んでいる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	いい加減である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	温和である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	無口である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7	心配性である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8	臨機応変である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9	成り行きまかせである	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10	怒りっぽい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11	陽気である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12	弱気になりやすい	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13	興味が広い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14	計画性がある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15	親切である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16	社交的である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17	くよくよしない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18	好奇心が強い	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19	几帳面である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20	協力的である	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(注)：項目の1,6,11,16が「外向性」に、項目の2,7,12,17が「神経症的傾向」に、項目の3,8,13,18が「開放性」に、項目の4,9,14,19が「誠実性」に、項目の5,10,15,20が「調和性」に対応している（項目4,6,9,10,17は反転項目）。

3-2-4 成熟を規定する要因

高校生段階の成熟を規定するであろう要因として、①憧れを抱く人物の有無、②困難を乗り越えた経験の有無、の2つを取り上げる。

「この様な人になりたい」という憧れの対象人物を持っていることは、本人が理想としての状態をイメージできていることに繋がるものであり、その憧れの対象人物が人生のロールモデルとして機能し、将来についての展望を持ちやすくなることが期待される。本研究ではこのような仮説に基づいて、生徒が憧れを抱く対象人物を持っているか、持っている場合にはその人物の具体的な名前、

その人物に憧れるようになった時期、その人物に憧れを感じる内容について問う質問を作成し質問紙に含めた。

実際の調査にあたっては、現代の高校生がどのような存在に憧れを感じているのかを幅広く把握するために、定量的分析のみならず、自由記述による定性的分析も組み込むことを想定した質問を用いた。また、我々が当初からドラマの主人公のような存在も想定していたため、「憧れている人物」に関しては実在の人物に限定することなく、人名等も書かなくてよいという条件設定にした。

具体的には、以下のものであった。

質問項目①-1

あなたが成長していく上で、「この様な人になりたい」と、憧（あこが）れている人はいますか？ 実在の人物でなくてもかまいません。

- 1 いる 2 いない

質問項目①-2

上の質問で「いる」と答えた人にお聞きします。あなたにとっての憧れている人とは、具体的にどのような人ですか？（たとえば、「坂本竜馬」のように、具体的な人物の「名前」を明示して下さってもかまいません。ただし、友だちなどの名前は不要です。）

質問項目①-3

その人に憧れるようになったのは、いつ頃からですか？

- 1 小学校時代 2 中学校時代 3 高校時代

質問項目①-4

上に書いた「その人」のどのようなところにあこがれを感じているのですか？ 具体的に聞かせてください。

一方、生徒が何らかの困難を乗り越えた経験は、今後人生において別の困難が生じたときにもそれを乗り越えていくことができるという自信に繋がるものであり、また、困難を乗り越える過程での苦労や試行錯誤、周囲から支援を受けた経験等は、本人の精神面での成長を促進することが予想される。本研究ではこのような仮説に基づいて、生徒が「非常に辛いこと」を乗り越えた経験を持っ

ているか、持っている場合にはその経験の具体的な内容、その経験を乗り越えるに至った経緯について問う質問を作成し質問紙に含めた。その際、高校生にとって分かりやすく、受け止められやすいように、「逆境」ではなく、「非常に辛いこと」(＝思うようにならず苦労したこと)という表現にした。

具体的には、以下のようであった。

質問項目②-1

あなたは、学校生活(勉強・受験・部活動を含む)、家庭生活、友だち関係などで「非常に辛いこと」(＝思うようにならず苦労したこと)を乗り越えた経験がありますか？

- 1 ある 2 ない

質問項目②-2

前の質問で、「ある」と答えた人にお聞きします。その非常に辛いことはどのようなものでしたか？できるだけ具体的に教えてください。

質問項目②-3

あなたは、その辛い経験をどのようにして乗り越えましたか？ そのいきさつを、できるだけ具体的に教えてください。

3-2-5 困惑したときにその気持ちを開示したい相手

成熟の過程で、他者との関わりや他者からの支援が重要な意味を持つことは、人格やアイデンティティの発達に関わる先行研究を待つまでもなく、社会の中での人の成長過程を考慮すれば、明らかである。特に人格の発達途上にある高校生段階で、他者との関わりはより重要な意味を持つと考えられる。教員対象のWeb調査においても、生徒の逆境への対処法で、周囲に相談に乗ってく

れる人や支援してくれる人の存在の重要性が指摘されていた。そこで、高校生自身は、自分が壁にぶつかり、悩んだときに、誰を頼るか、言い換えれば誰に支えてもらおうと思っているかを問うことによって、成熟実感や高校生活上での態度・行動との関係を調べることにした。質問内容は、高校生の心情を慮り、また、頼る相手は一人とは限らないと考えて、高校生の周囲に存在しているであろう人々を列挙して、以下のように設定した。

あなたが「もうどうなってもいいや」とか「嫌（いや）になっちゃった」というような気持ちになりかかったとき、あなたが、「その気持ちを聞いてもらいたい」と思う人は誰ですか？ 聞いてもらいたいと思う順番に、枠で囲んだ人たちの中から3人を選んで、その番号を下の表に記入してください（友だちの名前を書く必要はありません）。

また、その人に、実際に話を聞いてもらえそうな、その程度についても聞かせてください。

1父 2母 3兄 4姉 5弟 6妹 7おじ 8おば 9祖父 10祖母 11いとこ 12その他親戚の人 13近所の人 14その他のおとな 15クラスの友だち（男性） 16クラスの友だち（女性） 17クラス以外の友だち（男性） 18クラス以外の友だち（女性） 19部活動の友だち（男性） 20部活動の友だち（女性） 21先輩 22後輩 23学校外の友だち 24担任の先生 25部活動の先生 26教科の先生 27部活動のコーチ 28養護教諭 29その他（具体的に： ）

「気持ちを聞いてもらいたい」と思う順に、3人の番号を、以下に記入してください	実際に話を聞いてもらえそうな程度					
	らえそうもない	まったく聞いてもらえそうもない	ほとんど聞いてもらえそうもない	あまり聞いてもらえそうもない	そうまあ聞いてもらえそう	かなり聞いてもらえそう
①	1	2	3	4	5	6
②	1	2	3	4	5	6
③	1	2	3	4	5	6

4. 結果

4-1「高校生活上での態度・行動」の類別化

「高校生活上での態度・行動」に関する自己評価の35項目についてプロマックス斜交解を用いて因子分析を行ったところ、6つの因子が抽出された(表3参照)。各因子について、因子負荷が.40

を超えている項目だけを選び、信頼性係数(クロンバックの α)を算出したところ、それぞれ.84、.77、.73、.83、.67、.45となった。このうち、第6因子については信頼性係数が低いことから除き、第1～第5因子に対応した5尺度を用いて以降の分析を行う。

表3 「高校生活上での態度・行動」の因子分析の結果 (n=150)

質問項目	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5	因子6
6 班やグループ等、集団をまとめることが得意だ	.72	.02	-.14	.05	-.04	.07
34 どのようなふるまいをすれば、どのような結果を招くかわかっている	.65	-.07	.12	-.04	.04	-.03
36 周囲のことを考えたり、全体の状況を見渡すことができる	.62	.09	.03	-.01	.09	.16
11 自分の考えを自分のことばで表現できる	.60	-.02	-.09	-.15	.28	.26
5 自分の行動に責任を持っている	.57	.30	.00	.11	-.13	.17
24 学校行事に前向きに取り組もうとする	.56	.19	-.12	.02	.13	-.07
15 クラス内の仕事や役割を、責任を持って受けることができる	.49	.33	.07	-.13	.00	.04
33 早くおとなになりたいと思う	.41	.04	.02	.35	-.30	.08
35 嫌(いや)だと思うことでも我慢(がまん)強く取り組むことができる	.40	.09	.38	.04	-.15	-.06
14 身だしなみに気がつかっている	.12	.69	.15	.05	-.03	-.06
13 先生の指導に素直に従うことができる	-.02	.66	.24	-.03	.02	-.06
23 校則や社会的なルールを守って行動ができる	.22	.66	.03	-.15	-.05	.01
4 周囲からのアドバイスを素直に受けとめられる	.02	.58	.02	.14	-.02	-.03
19 先生やコーチに適切な言動で対応ができる	.18	.52	.02	-.01	.03	-.12
1 校内でおとなとすれ違う時、知らない人でも挨拶できている	.14	.48	-.27	.18	-.03	-.20
31 インターネットやゲームが好きだ	-.18	.43	-.14	-.38	-.12	.18
12 授業をきちんと聴こうとする	.01	.33	.58	-.08	.04	.08
25 予習・復習をして授業に臨んでいる	-.02	.01	.58	.16	.04	.17
3 授業で分らなかったことは、その日のうちに理解できるようにしている	-.12	.13	.57	.11	-.16	.10
20 定期試験の勉強に一生懸命取り組んでいる	.13	.03	.56	.16	.04	-.13
16 インターネット等を通じた直接知らない相手との情報交換は避けている	-.01	-.16	.52	-.14	.29	.06
8 将来、なりたい職業や夢を持っている	-.11	.08	.02	.81	.06	.14
18 高校卒業後の進路に関して自分なりの目標を持っている	-.02	.08	.09	.76	.03	.14
28 友だちや後輩などに勉強を教えてあげることがある	.13	-.15	.06	-.05	.53	.13
27 自分と違う考えを持つ人であっても、嫌いにならず、受け止めることができる	-.11	.35	-.12	.30	.48	.06
30 友だちや先生と意見が合わないときも、イライラしないで接することができる	-.06	.22	.06	.11	.47	.19

	22	下級生に優しくできる	.32	.28	-.05	.04	.46	-.12
	26	ボランティア活動に参加しようとしている	.07	-.12	-.04	.24	.14	.51
	32	将来は海外で活躍したい	.26	-.22	-.01	.23	-.07	.46
	9	各種検定や校外模試などに主体的にチャレンジしている	-.01	-.06	.23	.06	.14	.44
残余項目	21	信頼しあえる友だちがいる	.37	.15	.14	-.01	.20	-.30
	17	縁(えん)の下の力持ちのような目立たない役割でもきちんとできる	.25	.36	.09	-.01	.14	.16
	7	成長したいという意欲を持っている	.21	.13	.10	.25	.14	-.16
	10	社会の動向に興味がある	.08	.12	.17	-.12	.06	.39
	29	新聞や本など活字を読むことが好きだ	-.18	.38	.00	-.17	.09	.36
固有値(SMC)			8.66	1.96	1.67	1.24	1.19	1.05
寄与率			47.9%	10.9%	9.2%	6.9%	6.6%	5.8%

(1) 因子1「率先躬行の立居振舞」

因子1は、集団をまとめる、先々について予測する、自分の考えを表現できるなど、集団の中におけるリーダーシップ的な行動をとること、また、そのような心構えを持っていることを表すような項目から成ることにより、「率先躬行の立居振舞」因子とする。

(2) 因子2「公序良俗への順応」

因子2は、身だしなみに気を遣い、ルールを守り、周囲からの指導やアドバイスを素直に聞くなど、社会規範や道徳観念を理解し、受け入れているかを示す項目から成ることにより、「公序良俗への順応」因子とする。

(3) 因子3「自主的・計画的な勉学」

因子3は、授業を聴く、予習・復習を行うなど勉学に関わる内容の項目から成ることにより、「自主的・計画的な勉学」因子とする。

(4) 因子4「自己の具体的な将来像」

因子4は、将来や進路に対する自分なりの展望

を持っているかどうかを示す項目から成ることにより、「自己の具体的な将来像」因子とする。

(5) 因子5「対人融和・協調」

因子5は、友だちや後輩、自分と考えや意見が異なる人との対応など対人対応面に関わる項目から成ることにより、「対人融和・協調」因子とする。

4-2 統計分析に使用した全変数、および、変数相互の関連

今回の統計分析に使用した全変数は、1項目で測定された「成熟実感」、因子分析により抽出された「態度・行動」の5変数、「性別」(男=1、女=0)、「部活」(有=1、無=0)、「5大性格特性」の5変数、そして「憧れる人物」(有=1、無=0)と「困難を乗り越えた経験」(有=1、無=0)の、計15変数である。「高校生活上の態度・行動」の5変数と「5大性格特性」は、項目合計点を項目数で除した数値(平均値)を用いた。

表4 統計分析に使用した変数と変数相互の関連 (n=150)

変数	項目数	信頼性係数 (クロンバッチのα)	平均	標準偏差	相関																			
					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15					
1 成熟実感	1	-	2.94	.80	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 率先躬行の立居振舞	9	.84	3.79	.72	.41**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 公序良俗への順応	7	.77	4.38	.65	.33**	.50**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 自主的・計画的な勉学	5	.73	4.04	.75	.35**	.43**	.35**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5 自己の具体的な将来像	2	.83	4.28	1.28	.20*	.36**	.14	.22**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6 対人融和・協調	4	.67	3.89	.80	.20*	.43**	.40**	.33**	.28**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7 性別(1:男, 0:女)	1	-	.57	.49	.12	-.03	.09	-.03	-.10	-.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8 部活有無(1:有, 0:無)	1	-	.74	.44	-.06	.01	.01	-.20*	-.11	-.11	.13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9 憧れる人物有無(1:有, 0:無)	1	-	.46	.50	.04	.19*	.14	.06	.29**	.14	-.07	-.03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
10 乗り越え経験有無(1:有, 0:無)	1	-	.40	.49	.04	.17*	.13	.00	.22**	.04	-.23**	-.01	.26**	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11 外向性	4	.78	3.93	.96	.24**	.50**	.16*	.12	.26**	.34**	-.17*	-.11	.24**	.18*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12 神経症的傾向	4	.84	4.24	1.00	-.24**	-.20*	.03	-.06	-.14	-.09	-.24**	-.14	-.02	.15	-.15	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13 開放性	4	.66	4.09	.76	.16*	.48**	.25**	.08	.29**	.29**	-.01	-.13	.22**	.26**	.52**	-.04	-	-	-	-	-	-	-	-
14 誠実性	4	.67	3.07	.76	.34**	.44**	.24**	.50**	.21*	.28**	.03	-.17*	.09	-.05	.10	-.22**	.09	-	-	-	-	-	-	-
15 調和性	4	.74	3.87	.79	.43**	.61**	.50**	.35**	.20*	.57**	.08	-.07	.11	.09	.37**	-.21**	.35**	.37**	-	-	-	-	-	-

**p<.01, *p<.05

(1) 「成熟実感」との関係

「高校生活上での態度・行動」の5側面と「成熟実感」との相関は .20 ~ .41、「性格特性」との相関は -.24 ~ .43であり、すべてにおいて統計的に有意な関連性が見られた。一方、成熟を促進する要因として設定した「憧れを抱く人物の有無」と「困難を乗り越えた経験の有無」については、「成熟実感」との間に統計的に有意な相関は確認されなかった。

(2) 「高校生活上での態度・行動」の5側面との関係

「率先躬行の立居振舞」と「自己の具体的な将来像」の2側面について、「憧れる人物の有無」と「乗り越え経験の有無」との間にそれぞれ弱いながらも有意な関連性が確認された (.17 ~ .29)。

また、「自主的・計画的な勉学」と「部活の有無」との間には負の相関関係が見られた (-.20)。「性格特性」とは、全般的に5側面との間に有意な相関が認められた。特に、「率先躬行の立居振舞」と「外向性」(.50)、「調和性」(.61)、「公序良俗への順応」と「調和性」(.50)、「自主的・計画的な勉学」と「誠実性」(.50)、「対人融和・協調」と「調和性」(.57) の間に中程度の相関関係が見られた。他方、「神経症的傾向」については「率先躬行の立居振舞」(-.20) とにのみ有意な相関が確認された。

4-3 補足的分析①

「憧れる人物」と「困難を乗り越えた経験」の有無別に、「成熟実感」および「高校生活上での態度・行動」の5側面との関連について、補足的に分散分析を行った。

「憧れる人物」「困難を乗り越えた経験」とともに「成熟実感」との関係は見られなかったが、「率先躬行の立居振舞」と「自己の具体的な将来像」の2側面において、有群のほうが有意に高いことが確認された。(表5、6参照)

4-4 補足的分析②

成熟を促進する要因として仮定した「憧れを抱く人物の有無」、「困難を乗り越えた経験の有無」と「成熟実感」の間に直接的な関係性は見られなかったが、補足的分析①による「高校生活上での態度・行動」の5側面との間には一部に有意な関係が確認された。そこで、「憧れを抱く人物の有無」、「困難を乗り越えた経験の有無」が「高校生活上での態度・行動」の5側面にどの程度影響を及ぼしているのかを、他の変数(性別、性格特性、部活有無)の影響を除いて確認するために、階層的重回帰分析を試みた。

その結果、「自己の具体的な将来像」において、「憧れを抱く人物の有無」と「困難を乗り越えた経験の有無」の偏回帰係数がそれぞれ有意であり、また、「憧れを抱く人物の有無」については決定係数の増分も有意であることが確認された。すなわち、憧れる人物が存在すること、また、困難を

表5 「憧れる人物の有無」と、「成熟実感」および「高校生活上での態度・行動」との関連

	憧れる人物あり (n=69)		憧れる人物なし (n=81)		有意確率
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
成熟実感	2.97	.75	2.91	.85	.67
率先躬行の立居振舞	3.94	.75	3.67	.68	.02*
公序良俗への順応	4.48	.67	4.30	.64	.09
自主的・計画的な勉学	4.09	.79	3.99	.73	.44
自己の具体的な将来像	4.68	1.22	3.94	1.24	.00**
対人融和・協調	4.01	.78	3.79	.81	.09

**p<.01, *p<.05

表6 「困難を乗り越えた経験の有無」と、「成熟実感」および「高校生活上での態度・行動」

	乗り越え経験あり (n=61)		乗り越え経験なし (n=89)		有意確率
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	
成熟実感	2.98	0.81	2.91	0.80	.59
率先躬行の立居振舞	3.94	0.74	3.70	0.70	.04*
公序良俗への順応	4.49	0.67	4.32	0.64	.13
自主的・計画的な勉学	4.04	0.81	4.04	0.72	.97
自己の具体的な将来像	4.63	1.17	4.05	1.31	.01**
対人融和・協調	3.93	0.70	3.87	0.86	.66

**p<.01, *p<.05

乗り越えた経験を有することが、自己の将来のイメージを明確に持つことに関係し、とりわけ憧れる人物の存在の影響が強いことが示唆された。

この分析では、コントロール変数として性別、性格特性、部活の有無をこの順番で投入しているが、全体に、「高校生活上での態度・行動」の5側面に対しては「性格特性」との関係性が強いとい

える。「部活の有無」については、「率先躬行の立居振舞」において、性格特性の影響を除いた上でも有意な決定係数の増分を示しており、すなわち、部活をしていることと「率先躬行の立居振舞」との間に一定の関係性がある可能性を示している。(表7~11参照)

表7 率先躬行の立居振舞 (n=150)

		標準偏回帰係数 (β)				
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	
					憧れ人物	乗り越え経験
第1段階	1. 性別	-.03	-.03	-.04	-.04	-.03
第2段階	2. 外向性		.23**	.24**	.23**	.23**
	3. 神経症的傾向		-.03	-.01	-.01	-.01
	4. 開放性		.22**	.24**	.23**	.22**
	5. 誠実性		.27**	.30**	.30**	.30**
	6. 調和性		.34**	.34**	.34**	.34**
第3段階	7. 部活			.15*	.15*	.14*
第4段階	8. 憧れ人物				.02	-
	8. 乗り越え経験				-	.05
決定係数 (R^2)		.00	.56	.58	.58	.58
F 値		.13	29.78**	27.47**	23.89**	24.08**
決定係数変化分 (ΔR^2)		.00	.55	.02	.00	.00
F 値変化分		.13	35.68**	6.60*	.09	.74

**p<.01, *p<.05

表8 公序良俗への順応 (n=150)

		標準偏回帰係数 (β)				
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	
					憧れ人物	乗り越え経験
第1段階	1. 性別	.09	.08	.08	.08	.09
第2段階	2. 外向性		-.04	-.03	-.04*	-.03
	3. 神経症的傾向		.17*	.18*	.18	.18*
	4. 開放性		.11	.12	.11	.10
	5. 誠実性		.10	.11	.11**	.12
	6. 調和性		.47**	.47**	.47	.47**
第3段階	7. 部活			.08	.08	.08
第4段階	8. 憧れ人物				.07	-
	8. 乗り越え経験				-	.07
決定係数 (R^2)		.01	.29	.30	.30	.30
F 値		1.11	9.87**	8.66**	7.71**	7.66**
決定係数変化分 (ΔR^2)		.01	.29	.01	.01	.00
F 値変化分		1.11	11.54**	1.30	1.04	.77

**p<.01, *p<.05

5. 考察

本研究において成熟を促進する要因として設定した「憧れを抱く人物の有無」と「困難を乗り越えた経験の有無」は、「成熟実感」とは直接的な関係性は見られなかった。しかし、「高校生活上での態度・行動」の5側面のうち、「自己の具体的な将来像」と「率先躬行の立居振舞」との間に有意な関係性が確認された。このことは、困難を乗り越えた経験や自分の中でのモデルとなるような理想の人物が存在することが、高校生活における

言動や将来の自己イメージの形成に影響を与えていることを示唆するものであり、困難を乗り越えた経験や憧れの対象となる人物を持つことが、高校生段階での成熟を規定する要因の一つである可能性があるといえる。

以上の、本研究で得られた結果について、前回の高校教員を対象とした Web 調査の結果も踏まえて、少し付言をしておきたい。

前回の Web 調査では、「学業成績に問題はないが成熟は感じられない」、「先生の指導にはよく従

表9 自主的・計画的な勉学 (n=150)

		標準偏回帰係数 (β)				
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	
					憧れ人物	乗り越え経験
第1段階	1. 性別	-.03	-.04	-.03	-.03	-.03
第2段階	2. 外向性		.02	.01	.01	.01
	3. 神経症的傾向		.07	.05	.05	.05
	4. 開放性		-.04	-.05	-.05	-.05
	5. 誠実性		.44**	.42**	.42**	.42**
	6. 調和性		.22*	.22*	.22*	.22**
第3段階	7. 部活			-.11	-.11	-.11
第4段階	8. 憧れ人物				.01	-
	8. 乗り越え経験				-	.00
決定係数 (R ²)		.00	.29	.30	.30	.30
F 値		.15	9.89**	8.85**	7.69**	7.69**
決定係数変化分 (Δ R ²)		.00	.29	.01	.00	.00
F 値変化分		.15	11.83**	2.12	.01	.00

**p<.01, *p<.05

表10 自己の具体的な将来像 (n=150)

		標準偏回帰係数 (β)				
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階	
					憧れ人物	乗り越え経験
第1段階	1. 性別	-.10	-.11	-.10	-.09	-.07
第2段階	2. 外向性		.10	.09	.06	.09
	3. 神経症的傾向		-.10	-.11	-.12	-.13
	4. 開放性		.21*	.20*	.17	.16
	5. 誠実性		.15	.14	.12	.15
	6. 調和性		.02	.02	.03	.01
第3段階	7. 部活			-.05	-.06	-.06
第4段階	8. 憧れ人物				.21**	-
	8. 乗り越え経験				-	.17*
決定係数 (R ²)		.01	.14	.15	.19	.17
F 値		1.37	4.02**	3.49**	4.09**	3.67**
決定係数変化分 (Δ R ²)		.01	.14	.00	.04	.03
F 値変化分		1.37	4.51**	.44	7.23**	4.32

**p<.01, *p<.05

うが成熟は感じられない」、「友だちの数は多いが成熟は感じられない」という、成熟が不十分と思われる生徒たちの特徴を記述してもらったところ、「主体性がない」、「規範が内面化していない」、「人間関係が表面的」、「自己中心的」というコメントが多くあげられた。すなわち、「学業成績に問題がなく、先生の指導には従い、多くの友人がいる」という高校生の状態は、教員の目から見て、成熟のための“必要”条件ではあるが“十分”条件とはいえず、成熟そのことへと至るためには、主体性の獲得、規範の内面化、深い人間関係の構

築などが必要だと考えられていることが推察される。

一方、高校生を対象とした今回の調査では、「憧れを抱く人物の有無」と「困難を乗り越えた経験の有無」のそれぞれが、「率先躬行の立居振舞」と「自己の具体的な将来像」の2つの態度・行動との間に有意な関係性が確認された一方、「自主的・計画的な勉学」、「公序良俗への順応」、「対人融和・協調」との間には関係性が見られていない。この結果を前回の高校教員を対象としたWeb調査の結果と併せて解釈すると、「憧れを抱く人物

表11 対人融和・協調 (n=150)

		標準偏回帰係数 (β)					
		第1段階	第2段階	第3段階	第4段階		
					憧れ人物	乗り越え経験	
第1段階	1. 性別	-.06	-.07	-.07	-.07	-.08	
第2段階	2. 外向性		.12	.12	.11	.12	
	3. 神経症的傾向		.03	.03	.03	.04	
	4. 開放性		.05	.04	.04	.06	
	5. 誠実性		.09	.08	.08	.08	
	6. 調和性		.49**	.49**	.49**	.50**	
第3段階	7. 部活			-.03	-.03	-.03	
第4段階	8. 憧れ人物				.04	-	
	8. 乗り越え経験				-	-.06	
決定係数 (R ²)		.00	.36	.36	.36	.36	
F 値		.53	13.36**	11.41**	9.97**	10.07**	
決定係数変化分 (Δ R ²)		.00	.36	.00	.00	.00	
F 値変化分		.53	15.87**	.19	.28	.80	

**p<.01, *p<.05

の有無」と「困難を乗り越えた経験の有無」は、日々の授業や定期試験といった課題に取り組むこと（自主的・計画的な勉学）、校則やルールを守りながら教員やコーチといった年長者に対してふさわしい態度で応じること（公序良俗への順応）、自分と意見の合わない相手も含め友人とうまくやっていくこと（対人融和・協調）といった、高校生としての生活を営むために求められる態度や行動、言わば現実への受動的適応としての成熟の側面に影響を与えるのではなく、自分の考えを持って周囲や全体の状況に目配りをしながら責任ある行動をとろうとする姿勢（率先躬行の立居振舞）や卒業後の進路や将来について自分なりの像を描くこと（自己の具体的な将来像）という、本人が自問自答をくり返しながらかつて苦労して自分で答を見つけしていくことで生まれてくる主体的な態度や行動、言わば成熟のより本質的な側面に影響を与える可能性を示すものだとはいえるだろう。

成熟には、社会のルールを受容し、周囲の期待に応え、周囲の人たちと良好な人間関係を維持していくことができるという社会人としてのベースとなるスキル、習慣、価値観の受容・習得という側面（受動的側面）がある半面、かけがえのない個性を持つ存在として「自己」を確立し、人生の中長期的な展望を持ちつつ社会と主体的に関わっていくという側面（能動的側面）の2つがあり、特に後者の成熟を促す上で、自己の理想となる存

在を自分の中に持つことや困難を乗り越えていく経験が重要な役割を果たしている可能性がある。

本研究が高校教育の現場にとって持つ意味についても少し触れておきたい。

前回の Web 調査の結果からも推測されたように、「成熟」という言葉を日常的に用いているかどうかは別にして、高校教員が生徒の成長を捉える上で「成熟」という語を意識した視点をそれぞれに有していることは間違いないだろう。しかしながら、冒頭でも述べたように、成熟とは何なのか、それはどのような要素で構成され、どのような機序により高まっていくのかについては明らかになっていないのが現状である。このような状況の中で、「憧れの対象となる人物」や「困難を乗り越える経験」が「高校生活上の態度・行動」との間に一定の関係性を有するという本研究の結果は、生徒たちが「憧れ」も含めて将来に向けた目標を設定したり、様々な困難を乗り越えていくのをサポートすることが、「成熟」の促進にとって有益であることを示唆するものであり、生徒の指導・支援にあたっての一つの手がかりや見通しを提供する知見となる可能性があるだろう。

2013年6月に閣議決定された第2期教育振興基本計画において、文部科学省は「自立・協働・創造に向けた一人一人の主体的な学び」が必要であるとして、「社会を生き抜く力の養成」や「未来へ

の飛躍を実現する人材の養成」などを教育行政の基本的方向性として示しているが、初等・中等・高等学校教育など早期の段階から、広い意味でのキャリア教育の必要性が求められている近年の環境において、教員が「成熟」という視点を持って生徒に関わっていくことは、生徒たちの受け身ではない主体的な社会適応のレディネス、生き抜く力を高めることに繋がるものではないだろうか。

最後に、言うまでもないことながら、今回の高校生を対象とした調査から得られた結果は、「成熟」とその「機序」に関するごくごく一部であり、調査対象も一つの高等学校の2年生150名であり、一時点での調査データに基づいた横断的分析のそ

の結果である、という意味で限定的であることには留意が必要である。今後もさらに研究を重ねることで、「成熟」に関する知見を深めていくことが強く求められている。

附加資料1：「憧れを抱く人物」

(1)「憧れている人物」については、「いる」と答えた生徒が69名（男子37名・女子32名）、「いない」と答えた生徒が81名（男子49名・女子32名）だった。

「憧れている人物」について、記述されている対象人物の内容の類似性に基づいて、12種類に分類を行った。その結果は表12の通りである。

表12 憧れを抱く人物

人物	男 (n=37)		女 (n=32)		全体 (n=69)	
	人数	%	人数	%	人数	%
父親・母親・両親・親戚	2	5.4%	8	25.0%	10	14.5%
教師	2	5.4%	3	9.4%	5	7.2%
先輩	4	10.8%	1	3.1%	5	7.2%
友人	1	2.7%	1	3.1%	2	2.9%
スポーツ選手	11	29.7%	0	0.0%	11	15.9%
アーティスト	6	16.2%	1	3.1%	7	10.1%
俳優・声優・タレント	0	0.0%	5	15.6%	5	7.2%
アニメキャラクター	2	5.4%	0	0.0%	2	2.9%
業界の成功者	1	2.7%	0	0.0%	1	1.4%
歴史上の偉人	1	2.7%	0	0.0%	1	1.4%
抽象的な人間像	4	10.8%	8	25.0%	12	17.4%
無記入	3	8.1%	5	15.6%	8	11.6%

憧れを抱いた人物と性別とのクロス集計を行った結果、有意な性差が見られた ($\chi^2(11) = 30.80, p < .01$)。男女別の違いを見ると男子生徒の場合、スポーツ選手やアーティストなどで約45%を占めているが、女子生徒の場合はそれらの人物をほとんどあげておらず、父親・母親など身近な人物をあげているものが多かった。女性のほうがより具体的な実感を持ちやすい身近な相手を憧れの対象とする傾向があることが分かる。

(2) 憧れを抱き始めた時期については、「小学校時代」が13名、「中学校時代」が36名、「高校時代」が20名だった。男女別で時期による違いがあるか χ^2 検定を行ったが有意差はなかった。また、分散分析を行ったところ、「憧れを抱き始めた時期」と「成熟実感」および「高校生活上での態度・行動」との間に有意な関係性は見られなかった。

表13 憧れを抱き始めた時期

人物	小学校		中学校		高校	
	人数	%	人数	%	人数	%
男 (n=37)	10	27.0%	19	51.4%	8	21.6%
女 (n=32)	3	9.4%	17	53.1%	12	37.5%
全体 (n=69)	13	18.8%	36	52.2%	20	29.0%

(3) 憧れを感じるようになった事由について、記述されている対象人物の内容の類似性に基づいて分類を行った。記述内容によっては複数の事由に当てはまると考えられるものがあったため複数の内容に分類したものもある。憧れている人物（質問項目2）の記述内容が多岐にわたっているのに対して、憧れを感じるようになった事由（質問項目4）については回答内容にかなりの類似性が見られたため、大きく6タイプの事由で分類を行った。各タイプの該当件数は以下の通りである。

憧れるようになった事由のA～Fの6分類のうち、最も件数が多かったのはタイプDの「魅力的な生き方・人間性」であり、69名中の27件がこのタイプに該当する。

また、6分類をさらに内面的魅力（タイプA～タイプD）と外面的魅力（タイプE、タイプF）に区分すると、前者が91件なのに対して後者は27件と、内面的魅力を事由にあげた生徒のほうがかなり多い。

表14 憧れる人物とその事由

憧れる人物	人数	A	B	C	D	E	F
		努力・挑戦する積極性	独自性・自分らしさの堅持	対人配慮、他者への影響	魅力的な生き方・人間性	技術・能力の高さ、成功	人気、外的な魅力
父親・母親・両親・親戚	10	2	1	3	6	1	0
教師	5	4	3	1	4	2	0
先輩	5	1	0	1	1	4	0
友人	2	0	1	2	0	0	0
スポーツ選手	11	4	3	0	3	8	1
アーティスト	7	3	2	0	2	4	0
俳優・声優・タレント	5	0	2	3	4	1	1
アニメキャラクター	2	1	0	0	1	0	0
業界の成功者	1	1	0	1	0	1	0
歴史上の偉人	1	0	1	1	1	0	0
抽象的な人間像	12	2	4	5	3	3	0
無記入	8	3	5	4	2	1	0

(4) 以上の (1) ~ (3) のまとめの元となった、 拳した通りであった。
69名の記述は、具体的に、以下の表15に整理・列

表15 「憧れる人物」と「憧れる事由」の具体的記述

【父親・母親・両親・親戚 (10名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	父親	生き方や、仕事の技術、頭の回転
男	父親	時に優しく、時に厳しいけど明るく、まじめ
女	父親	思慮深い所や合理的、常識的な考えを持っている所
女	父	誰に対しても優しい
女	母親	おもいやりのあるところ
女	お母さん	人の相談をきちんと聞いてアドバイスしてくれるところ
女	お母さん	お父さんが単身ふにんで普段家になくお母さん1人で家事をして仕事をしていて、さらにおばあちゃんが認知症になって仕事の休みごとにおばあちゃんの家に行ってお世話して忙しいのに1つ1つこなしているところ
女	両親	教師という仕事を通して生徒に全力でぶつかっていくところ
女	親、祖母	生き方
女	親せきのお姉さん	若くで結婚したけど、しっかり責任をもって子どもも育てて、その中でも自分のしたいことを(旅行とかしゅみ)充実させているから
【教師 (5名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	中学の数学の先生	クラスをうまくまとめていただき、自分の好きな数学を専門としていたから。その姿にかっこいいと思ったから
男	中学時代の恩師	自分に厳しくルールを守り自分の目指すものにまっすぐ努力をされているところ
女	担任の先生 働きながら趣味も楽しめる女性	人柄、勉強の教え方、本を読む量や内容、知識量、言葉づかい、人の心を変えられる温かい心
女	中学校 顧問の先生	部活動に対する熱心さ。人を寄せつける魅力
女	塾の先生。だけどようち園のボランティアでおはしの使い方教えたり、就職活動の講師してたりするみたいです。いろんな資格もっている!	とにかく色々な経験しているから、話がスケール大きいしおもしろいし、知らない世界を沢山教えて下さる。あと、生徒ががんばっているなら自分も、と目標をたててらっしゃって矛盾もいわないし、行動にしてくれるというか
【先輩 (5名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	部活の先輩	状況に応じて的確に指示をだすところ
男	高校の相撲部の先輩	何でも積極的で楽しんでいる所
男	相撲の先輩	相撲の取り口
男	バレー部の3つ上の先輩	バレーに関しての技術や能力がとても高いこと
女	先輩	絶対に弱音を吐かないし、練習もきっちりこなすし、後輩の面倒もみてもらったし、時間の使い方もうまいし、勉強もすごく努力したから
【友人 (2名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	友人	自分の意見がはっきりしていて、芯が強くまわりをひっぱっていているところ
女	友達	いつも笑顔で誰にでもわけへだてなく接するところ
【スポーツ選手 (11名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	森下雄一郎	まったく無名だったのに、アメリカで活やくされたから
男	コービー・ブライアント	一生死ぬまで自分とげることを目指している所に、すごいという感心をひき、また、ボールをおい続けるしせいがとてもすばらしいから。(バスケットボールにおいて)
男	クリスティアーノ・ロナウド	サッカーがうまいところ
男	リュウショウ (中国人のハードル選手)	110m ハードルで1度世界記録で金メダルを取った

男	遠藤保人	昔ワールドカップのときに、フィールドの選手で1人だけ試合に出れなかったけど、そのくやしきからまた一段と技術をみがき、今では日本代表の中心選手でがんばっているから
男	元プロ野球 清原	体の強さ
男	イチロー	努力家
男	イチロー	技術の高さ
男	元阪神 金本	野球一筋で上手い所
男	浜中騎手	まだ若いのに、史上三番目(?)の若さで全国リーディングになったこと
男	アブドラ・ザ・ブッチャー	来日レスラーの中でも1番人気で、試合を見てても魅力的だから
【アーティスト (7名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	浅倉大介さん	独学ながらシンセサイザーの開発にたずさわったところ
男	フィリップ・ジョーンズ(トランペッター)	木管楽器のような優しい音色で美しいトランペットの音を聞かせてくれるところ
男	B'zの稲葉さん	音楽に対する熱意と高いプロ意識
男	WEAVERのボーカル 杉本雄治	歌が上手く、ピアノが上手いところ
男	アーティスト	一生懸命努力し続けているところ
男	自分の好きな事、得意な事を極めて仕事にしている人。(マンガ家、アーティスト等)	我が道を歩んでいるところ
女	マイケルジャクソン	憧れというよりは尊敬ですが、ただステージでパフォーマンスするだけでなく、自分のコンサートの利益金を全て寄付したり、子供達を愛し、地球環境のことまで考え、うったえ、そして何よりも、こんなに人を感動させ、元気づけてくれるのはこの人だけだったと感じます
【俳優・声優・タレント (5名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
女	上川隆也さん/大野智さん	演技やダンスの振りや人間性。自分らしさを持っているから憧れる
女	ベッキー	明るく前向きで人のことを考えているところ
女	大空祐飛さん	・自分の性格を分かっているところ ・人に対して優しいところ
女	声優業をしている人で、話がおもしろくて、キツイことを言っている様だけど、実際のを得ていて、なんとなく優しい人。	ときどき汚いことを言ったりするけど、ちゃんと時と場合と人を見て、ちゃんとした発言をしているところと、何より話がおもしろいところ
女	モデルとか、女優さんなど	美人で可愛くて、華やかで自由なところ
【アニメのキャラクター (2名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	某アニメキャラ	生き方、生き様、考え方
男	茂野吾郎	がむしゃらに前に進んでいくところ
【業界の成功者 (1名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	その人はその業界で現在4年連続世界一	その人自身またはそのチームが常に世界一であるように日々努力していること
【歴史上の偉人 (1名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	杉原千畝	国家権力に屈せず自分の意志を突き通して、人を助けたところ
【抽象的な人間像 (12名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男	物事に積極的に取り組める人	物事に積極的なところ
男	たよれて、何でも上手にこなせる人	自分のところだけでなく周りにも気をくばれているところ
男	いかなる苦境においても自分自身を見失うことなく、冷静かつスマートに対処できる人格者	自分にはとうていできると思えないことを、平然とやっつけてのけるその性格に
男	皆に好かれるような	信頼ある関係を築けるところ
女	しっかり「自分」をもっている人。	自分の意志をしっかり持っていて他人に絶対流されないし、ダメなことはダメとしっかり言える人
女	どんな時も明るく笑顔の人。	笑顔でいるだけで、周りも明るくなって暗い気持ちもふきとぶような感じがするところ
女	人の役に立てる人	役に立つと相手が喜んでくれるところ

女	自分のやりたいことをしてる人	自分のやりたいことをすなおにして、周りに流されたりしないところ
女	周りを巻き込んでいける人	楽しい時は思い切り楽しんで真剣な時は真剣、周りのこともしっかり考えられる
女	英語が上手な人	英語が話せるところ
女	テニスが上手い人	全部
女	しっかりしている人	
【無記入 (8名)】		
性別	憧れる人物	憧れる事由
男		部活動でのプレー
男		人間性がすばらしく、たよりになるところ
男		カリスマ性
女		人間的に成熟していて、物をみる目線が自分やふつうの人とは違うところ
女		誰かの変化に気づき、人に流されることがない。安易に意見を否定せず、自分の意見を言ってくれるところ
女		何歳になっても夢を追い続けていて、その夢に向かって一生懸命なところ
女		自分の夢にいつもときめいていて、そのための努力を惜しまないからです
女		夢をかなえるためにがんばって、今その仕事についても、まだまだ上をめざすために、努力しているところ。どんなに嫌なことがあっても弱音をはかないし、いっぱいアドバイスもくれる

附加資料2：「逆境乗り越え経験」

(1) つらいことを乗り越えた経験が「ある」と答えた生徒は61名、「ない」と答えた生徒は89名だった。つらいことを乗り越えた経験が「ある」と答えた61名について、記述されている乗り越え経験の内容の類似性に基づいて分類を行った。

61名中19名(31%)が、人間関係がうまくいっていないとした。内容を見ると、部活動で生徒同士や教師との関係がうまくいっていないケースと、学校の内外で様々なきっかけで人間関係がうまくいっていないケースである。

同様に14名(23%)が部活動や勉学で努力に見合った成果が出ていないとした。内容を見ると、部活動では、思うようにプレーできない、レギュラー落ちの危機、公演の準備がうまくいかない等、思い通りの結果が出せなかったケースである。勉学では、推薦入試が受けられなかった、勉強の伸び悩み等、学校での勉強がうまくいかずつらい思いをしたケースである。これらは高校生として対応の努力をしているが、思う成果が上げられなかったケースである。

同様に13名(21%)が学校生活や部活動に適応

できていなかった。内容を見ると、自分に課された課題や役割をつらいと思ったり、部活動を嫌と感じたり、学校生活に適応できず無力感に陥ったりしたケースである。

同様に8名(13%)が事故やアクシデント、同様に7名(11%)がいじめを経験していた。

以上、つらいことを乗り越えた経験者が遭遇した「つらいこと」は、高校生にとってごくありふれた経験のように思われる。しかし、ごくありふれた経験とはいえ、その経験をつらいと思うかどうかは本人の認知の問題であり、これらの生徒はつらいと思う経験をしたと受け止めたということである。

以上を、前回の教員を対象にしたWeb調査結果と比較すると、教員Web調査では最も多かった家庭環境に関わる内容(経済的困窮、両親の離婚・失業、親の責任放棄、家庭崩壊等)が、高校生の調査では見られなかったことである。この違いは、教員Web調査では、「高校生が遭遇した逆境」としたのに対して、高校生調査では、「自分が乗り越えたつらい経験」としたことが関係している。自分の努力では解決が困難な家庭環境の

問題については、記述から除外された可能性がある。その他の内容については、教員が考える逆境と高校生自身が考えるつらいことの分類項目は一致していた。

(2) どのようにしてつらいことを乗り越えたかについても、内容の類似性に基づいて分類を行った。

表16に見る通り、耐えて頑張る(20人)、周囲の人に話を聞いてもらったり支援を得たりして問題を解決する(17人)、相手と向き合い話し合う(13人)、時間の経過で解決ないし軽減(12人)、気持ちを切り替える(10人)、に集約できた。これらには、先を見据えて、現在の問題に主体的に向き合うという共通性が見て取れ、定量的分析結果が

示した、「つらいこと」の乗り越え経験が「率先躬行の立居振舞」と「自己の具体的な将来像」とに関係していることと符合していると思われる。すなわち、つらいことの乗り越え経験を通して、問題に向き合い解決する意識と行動が促進され、乗り越えることによって精神的余裕ができ自分を俯瞰的に眺めたり将来を考えたりする意識が形成されると考えられる。さらに、これらの対処戦略は、教員 Web 調査で析出された、状況を受け止めて粘り強く頑張る、周囲の人に相談したりアドバイスや支えを得たりして逆境に立ち向かう、逆境を避けず、課題に正面から向き合うポジティブな思考と取り組みなどの「逆境への対処法」と一致している。

表16. 「つらかったこと」と「その乗り越え方」

	乗り越え方(複数回答)					
	頑張った、耐えて頑張った	親、友だち、先輩、先生に、相談、支援してもらおう。話(気持ち)を聞いてもらう	向き合って話した	軽減 時間の経過で解決、ないし	気持ちを切り替えた	その他
つらかったこと						
人間関係がうまくいかない (n=19) 記入例：部活動で先生と合わず、一方的に怒られるのが嫌でやめたいと思った。信頼していた友だちから裏切られたこと。	2	5	7	5	3	2
努力に見合う成果が上がらない、思うような成果が出ない (n=14) 記入例：テスト勉強をしっかりとされたけど思ったほど点数が取れなかった。部活動では、なかなか上達しなかった。	8	4	1	2	4	0
学校生活や部活動に適應できない (n=13) 記入例：部活が嫌で嫌でたまらなかった。何をやっても失敗ばかりで先が見えなかった。	5	5	3	1	2	1
事故・アクシデント (n=8) 記入例：けがをした。部活に入らなかったこと。	3	1	0	1	1	2
いじめ (n=7) 記入例：小学校時代はややいじめられていた。無視される。	2	2	2	3	0	1
件数%	20 25.6%	17 21.8%	13 16.7%	12 15.4%	10 12.8%	6 7.7%

附加資料3：「困惑時の自己開示対象」

友だち、母、父、きょうだいに絞られている。第2、第3順位になると他の相手も選ばれるようになるものの同じ傾向になっている。

(1) 困惑したそのときに「話を聞いてもらいたい相手」として、第1順位に選ばれたのは、全体では、

表17 困惑したときに「話を聞いてもらいたい」その相手

第1順位	男 (n=85)		女 (n=63)		全体 (n=148)	
	人数	%	人数	%	人数	%
母	23	27.1%	23	36.5%	46	31.1%
父	16	18.8%	2	3.2%	18	12.2%
友だち	37	43.5%	32	50.8%	69	46.6%
きょうだい	6	7.1%	4	6.3%	10	6.8%
祖父母	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
先生 (担任、部活動、養護)	1	1.2%	1	1.6%	2	1.4%
部活動のコーチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
先輩	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%
その他	1	1.2%	1	1.6%	2	1.4%

第2順位	男 (n=83)		女 (n=61)		全体 (n=144)	
	人数	%	人数	%	人数	%
母	27	32.5%	16	26.2%	43	29.9%
父	12	14.5%	6	9.8%	18	12.5%
友だち	33	39.8%	25	41.0%	58	40.3%
きょうだい	5	6.0%	7	11.5%	12	8.3%
祖父母	1	1.2%	2	3.3%	3	2.1%
先生 (担任、部活動、養護)	2	2.4%	2	3.3%	4	2.8%
部活動のコーチ	1	1.2%	0	0.0%	1	0.7%
先輩	2	2.4%	2	3.3%	4	2.8%
その他	0	0.0%	1	1.6%	1	0.7%

第3順位	男 (n=83)		女 (n=62)		全体 (n=145)	
	人数	%	人数	%	人数	%
母	7	8.4%	6	9.7%	13	9.0%
父	6	7.2%	7	11.3%	13	9.0%
友だち	51	61.4%	35	56.5%	86	59.3%
きょうだい	8	9.6%	4	6.5%	12	8.3%
祖父母	2	2.4%	0	0.0%	2	1.4%
先生 (担任、部活動、養護)	3	3.6%	7	11.3%	10	6.9%
部活動のコーチ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
先輩	3	3.6%	2	3.2%	5	3.4%
その他	3	3.6%	1	1.6%	4	2.8%

(2) 第1順位に父、母、友だちを選んだ群を取り出して、「成熟実感」、および、「高校生活上での態度・行動」の5側面が相談相手によって異なるのか分散分析を行った。全体、男女ともに有意な差は見られず、聞いてもらいたい相手による違いがないことが確認された。一方で、相手に話を聞いてもらえそうな程度との相関分析を行ったところ、全体としては「自己の具体的な将来像」を除

いて聞いてもらえそうな程度との関係性が見られた。男女で分けて見てみたところ、一部差があり、「成熟実感」、「主体的・計画的な勉強」の2つが女性は無相関であった。男性は話を聞いてもらえそうだと思えているほど、自分の成熟度合いや勉強への姿勢もプラスになっているが、女性は聞いてもらえるか否かには関係がないということである。

表18 話を聞いてもらえそうな程度(第1順位)と成熟実感、態度・行動因子との相関

第1順位	男 (n=76)	女 (n=57)	全体 (n=133)
成熟実感	.45**	.08	.29**
率先躬行の立居振舞	.37**	.37**	.37**
公序良俗への順応	.24*	.27*	.24**
主体的・計画的な勉強	.32**	.14	.24**
自己の具体的な将来像	.21	.00	.12
対人融和・協調	.26*	.35**	.30**

**p<.01, *p<.05

引用文献

- Allport, G.W. (1961) *Pattern and Growth in Personality*. Holt, Rinehart and Winston. (今田 恵 監訳『人格心理学』誠信書房, 1968)
- Blos, P. (1962) *On adolescence, a psychoanalytic interpretation*. Free Press of Glencoe.
- Erikson, E.H. (1959) *Identity and the life cycle*, International Universities Press. (小此木啓吾訳 編『自我同一性－アイデンティティとライフ・サイクル』誠信書房, 1973)
- 金井壽宏 (2002)『仕事で「一皮むける」－ 関経 連「一皮むけた経験」に学ぶ』光文社
- 経済産業省「社会人基礎力に関する研究会」(2006) 『中間取りまとめ』
- 町沢静夫 (1992)「成熟できない若者たち」講談 社
- 文部科学省 (2013)「第2期教育振興基本計画」
- 大泊剛ほか (2012)「現代日本における『若者の 成熟』の研究－現場教員たちの目に映じた高校 生たちの行動の分析から－ウェブ調査報告書」 人材育成研究, 第7巻第1号 (2012.3)
- 斎藤環 (1998)「社会的ひきこもり－終わらない 思春期」PHP 研究所
- 下山晴彦 (1982)「高校生の人格発達と進路決定 －テストバッテリーを用いての縦断的事例研究－」 東京大学教育学部紀要, 22, 211-222.
- Super, D.E. (1957) *The psychology of career*. New York : harper & Row.
- 高橋潔 (2010)「人事評価の総合科学－努力と能 力と行動の評価」白桃書房
- 和田さゆり (1996)「性格特性用語を用いた Big Five 尺度の作成」心理学研究, 67, 61-67.

